

COTTON 1/2

Builder：綿半林業 Interview：太田真紀さん

やわらかい暮らし

造りは丈夫なのにやわらかく、無垢材なのにロープライス。新しいのに懐かしく、伝統的なのに革新的。本来、相反するであろう要素の良いところだけを半分ずつ合わせて1になる。そんな「cotton1/2」の家について、広報課長の太田真紀さんにお聞きました。



A

B | C

D | E

A_ 桐の床、杉の柱、松の梁など無垢材を多用した室内。壁に貼った珪藻土クロスは調湿効果のほか、匂いや微細なホコリを吸着し、ホコリを好むダニを減らす効果がある。 B,C_ 無垢材のテーブルやカトラリーなど、暮らしのディテールを大切に人にごそ自然素材の家を選んでほしい。 D,E_ 外観はすっきりシンプル。外張り断熱で断熱性と気密性を高め、結露を防ぎ、光熱費をおさえている。



やわらかく温かい自然素材に包まれて

綿半林業の新ブランド「cotton1/2」のモデルハウス「桐の家」を訪ねました。住宅街に立つ片流れ屋根のスタイリッシュな家のドアを開けると、室内は木がふんだんに使われ、懐かしい印象を覚えます。

思い出したのは、田舎にある祖母の家。高さのある天井を梁が支え、柱には振り子時計が、長押しにはカレンダーがかかるといった柱や梁などの構造材が見える「真壁」は、日本の伝統的な壁の納め方で、今も和室でよく見られます。

桐の家だけに、床には桐の板材が敷かれています。「やわらかい家というのは、

桐の材質だけでなく、森の中にいるような安心感や、ゆっくりとした時間の流れを表しています」。こう話すのは広報を務める太田真紀さんです。

柱は杉、見上げる梁は赤松の無垢材が使われ、これだけ木に囲まれていると「森に包まれているような」という謳い文句のとおり、心が安らぐ気がします。「それは気のせいではなく、木のおかげなんです」と太田さんは言います。細菌や害虫から身を守るために木が発するフィトンチッドという成分は、人間にとってはストレスを和らげ、心を安定させる効果

があるので。

そして木の家に「温もりを感じる」のも比喩的表現ではなく、実際に足の裏からじんわり伝わってくる温かさがあります。桐は木材の中でもっとも軽く、スポンジ状の内部にたくさんの空気を含んでいます。「断熱性が高く、触れても体温が奪われることなく返ってくるんですよ」と言われ、なるほど、この温もりは自分の体温に由来するのかと納得し、「木の家の心地良さは、たとえ話ではなく、意外と根拠があるんです」の言葉にうなずくのでした。





F_柱や梁など構造材を現しにする真壁は、1m間隔で並ぶ柱が整然として心地良い。床板、階段、建具などの部材はオリジナルで、統一感を生む。木は天然塗料で仕上げ、好みに合った色を選べる。 H,I_桐の床は、夏はさらさら、冬は温かく、コットンのような肌ざわり。やわらかくて子どもの足にもやさしく、立ち仕事をすする体にもうれしい。1年中、素足で過ごしたくなるかも。 J,K_柱が等間隔に並ぶグリッドデザインは空間にリズムを与え、どんなインテリアも受け止める。壁に落ちる影ごと縁取って、一幅の絵画のような景色を生む。



グリッドデザインで際立つ無垢材の強さと美しさ

軽さや耐久性の高さ、虫や湿気に強いことなど、桐の良さはたくさんありますが、床材として特筆すべきは、やはりやわらかさ。足裏へのあたりのやさしさだけでなく、足腰への負担を和らげてくれます。

しかし、そのやわらかさゆえ傷がつきやすいのでは。そんな懸念に太田さんが答えます。「凹んだり傷がつくのは、どの無垢材も同じです。ならば桐の良いところに着目すべき。それほど桐は床材として優秀です。それでも桐のやわらかさが気になるお客様には赤松の板材もご用意しています」

桐はまた、木目が美しく滑らかで、調

湿効果が高く、さらさらとした感触であることも魅力です。cotton1/2では木の呼吸を妨げないようオリジナルの植物性ワックスを使います。「ワックスは販売していますので、定期的に塗り直したり、傷ついたところに塗っていただくというですよ」

太田さんいわく「木を使う場所は適材適所」。たとえば土台には米ヒバを使います。ヒバ材は水分に反応してヒノキチオールという防虫・防腐成分を放出し、そのうえ堅く、土台にはぴったり。柱には縦方向の荷重に強い杉を使います。梁には強度があって粘り強い米松を使います。

現代の家の多くが「大壁」という造りで、構造となる部分に集成材を用いて壁の中に納めるのに対し、伝統的な真壁造りでは柱や梁などを隠さず「現し」にします。cotton1/2の家では無垢の構造材は空気に触れて、温度や湿度を調整しやすく、より長持ちするのです。

集成材は、接着剤の経年劣化によって接着力は次第に弱まり、当然ながら木材としての強度も弱まります。一方、無垢材の耐久性は、現存する古民家や寺社仏閣などが証明するところ。「日本の気候風土では、無垢材が一番耐久性の高い建材だといえます」と太田さんは明言します。





自社一貫生産が ロープライスの秘密

cotton1/2は自由設計が基本。「1m刻みで建物を大きくも小さくもできます。ただし、ロスが多い50cm刻みでの増減やコの字やL字型の設計はしていません。取り合い(接合部)は雨漏りなどの不具合が起きやすいので、できるだけシンプルな造りにしています」と太田さん。

木材は特許をもつ独自の技術で乾燥させます。「ねじれたり反ったり、家を建ててからも木は動くのですが、それを出し切ってから加工するので、動きを最小限

におさえることができます」
屋根は斜めに上がる「登り梁」に屋根パネルをのせて固定するだけ。断熱材と遮熱シートが仕込まれているので、作業の手間が省けます。「天井がない分、空間は広がり、施工期間が短くなるので価格をおさえることができます」

屋根だけでなく壁も1枚のパネルとして工場で作くり上げ、柱や梁は使う場所に合わせた加工を施し、磨き、着色まで行います。基礎工事の済んだ現場で行う

のは、ほぼ組み立て作業のみ。土台敷きから本体工事が終わるまで、約1カ月という早さです。

こうしたやり方を可能にしているのが、木材の仕入れから加工、そして施工まで自社で行う一貫生産の体制です。「自社ですべて行う最大のメリットは、他社にマージンが流れないこと。徹底的にコストをカットして、いかに品質を下げずに価格を下げるかを一番の目標にしてみました」と太田さんは言います。

無垢材の家を あきらめないで

「多くの方は家づくりのことを調べるほど、無垢材の家は高いからと二の足を踏み、自分たちには無理だとあきらめてしまう。そういう方にこそ届けたいと思い、少しでも安くご提供できるようにがんばったのが、この家です」

cotton1/2を展開する綿半林業は綿半ホールディングスのグループ会社であり、変遷をたどれば、無垢材を用いた和風建築に長けた「夢ハウス」グループとして、木材の共同購入にはじまり、建材の共同



開発を行ってきました。「ブランドは新しいですが、会社は50年近く木の家づくりに携わってきました。長い年月をかけて今の品質にたどり着いています」

あらためて桐の家を見回すと、無垢材の良さを生かす真壁は、柱が等間隔に並び、整然とした美しさを生み出しています。この統一感ある「グリッドデザイン」は、じつはどんなインテリアも受け入れるのだと太田さんは言います。

「青や白など強い色のソファも、使い慣

れたダイニングテーブルも、不思議と調和するんです。フラットな空間に置くと浮いてしまいがちですが、それがいい。確かに、伝統工法と先進技術を取り入れた家は、新しさと懐かしさが共存し、和洋どちらにも馴染む懐の深さがあります。

「家を建てるのは一生に一度の大きな投資ですから、本質の部分で我慢したり、妥協することのないように。まずはモデルハウスに身を置いて、この家の質感や空気感を感じていただきたいです」

L | M | O
N | P | Q

L,M,N_ロフトのある「桐の家」の2階のフリースペース。吹き抜けて1階とつながり、家族の気配を感じられる。床にもグリッドデザインを採用し、斜めになった梁と屋根が秘密基地のような雰囲気。O_1m刻みの自由設計なので、壁に囲まれた集中型のワークスペースも実現できる。P_小さな灯りに浮かび上がる、ふとした瞬間。無垢材の柱は日常にドラマチックな景色を生む。Q_片流れ屋根はスタイリッシュなだけでなく、取り合いのトラブルがないのが利点。



綿半林業 [cotton1/2] <https://www.cotton-nibunno1.jp>

cotton1/2 中信店 / 株式会社 綿半ホームズ
cotton1/2 松本店 / 株式会社 綿半工務
cotton1/2 上田店 / 株式会社 ハビアデザイン
cotton1/2 須坂店 / 株式会社 住まいのセンター
cotton1/2 茅野店 / 一級建築士事務所 JOE設計

松本市大字笹賀7600-2 0263-57-6377
松本市村井町南2-1-28 0263-85-0070
上田市古里84-28 栄光ビル202 0268-71-6231
須坂市大字塩川492-1 026-248-1076
茅野市豊平1676 0266-73-9330